

## 鳶野 克己 教授 略歴 著書・論文等目録

### 学 歴

- 1955年 4月 京都市に生まれる
- 1974年 3月 私立洛星高等学校卒業
- 1974年 4月 京都大学教育学部入学
- 1978年 3月 京都大学教育学部卒業
- 1978年 4月 京都大学大学院教育学研究科修士課程入学（教育学・教育人間学専攻）
- 1980年 3月 京都大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士）
- 1980年 4月 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程入学（教育学・教育人間学専攻）
- 1983年 3月 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程学修認定退学

### 職 歴

- 1980年 4月 社会保険神戸中央病院付属看護専門学校非常勤講師（1984年3月まで）
- 1983年 4月 京都大学研修員（1984年3月まで）
- 1983年 4月 光華女子大学文学部非常勤講師（1984年3月まで）
- 1984年 4月 光華女子大学文学部専任講師
- 1985年 10月 京都産業大学教養部非常勤講師（1986年9月まで）
- 1989年 4月 光華女子大学文学部助教授
- 1990年 4月 大阪外国語大学外国語学部非常勤講師（1997年3月まで）
- 1993年 4月 アメリカ合衆国アリゾナ州立大学教養学部客員研究員（1994年3月まで）
- 1994年 4月 光華女子大学文学部人間関係学科助教授（学科新設に伴う転属）
- 1994年 4月 甲南女子大学文学部非常勤講師（2000年3月まで）
- 1995年 7月 京都大学教育学部非常勤講師（集中講義）
- 1998年 4月 光華女子大学文学部人間関係学科教授
- 1998年 4月 京都大学総合人間学部非常勤講師（1999年3月まで）
- 2000年 4月 武庫川女子大学文学部非常勤講師（2001年3月まで）
- 2001年 4月 京都光華女子大学人間関係学部教授（校名変更並びに学部改組に伴う転属（2001年9月まで））
- 2001年 10月 立命館大学文学部教育人間学専攻教授（現在に至る）
- 2002年 4月 同志社大学文学部嘱託講師（2005年3月まで）
- 2004年 4月 立命館大学文学部入試担当主事（現入試担当副学部長職）（2005年3月まで）
- 2005年 4月 立命館大学大学院文学研究科に新設された教育人間学専修担当教授（現在に至る）
- 2005年 4月 同志社大学社会学部嘱託講師（現在に至る）
- 2008年 4月 関西学院大学大学院文学研究科非常勤講師（2008年9月まで）
- 2010年 4月 立命館大学大学院文学研究科長（2011年3月まで）

- 2014年 7月 学校法人立命館評議員（2017年7月まで）  
2018年 9月 奈良女子大学大学院人間文化研究科・文学部非常勤講師（集中講義）

## 学会および社会における活動等

- 1980年 4月 関西教育学会（2014年から理事、研究紀要編集委員 現在に至る）  
1980年 4月 教育哲学会  
1982年 4月 日本教育学会  
1991年 4月 教育思想史学会  
1991年 4月 The International Society for Humor Studies  
1992年 4月 アメリカ教育学会  
1997年 4月 日本笑い学会（2012年8月から理事、学会誌編集委員長、2014年8月から副会長 現在に至る）  
2004年 4月 臨床教育人間学会（2011年から理事 現在に至る）  
2008年 4月 日本オーラルヒストリー学会  
2013年 1月 大阪府立上方演芸資料館指定管理者選定委員会委員長（2013年3月まで）  
2013年 4月 大阪府立上方演芸資料館指定管理者評価委員会委員長（2015年3月まで）  
2016年 1月 公益財団法人SGH財団奨学生選考委員会委員（現在に至る）  
2020年 1月 大阪府立上方演芸資料館運営懇話会会長代理（現在に至る）  
2020年 9月 日本笑い学会 学会賞佳作受賞（論文名「「生きることのおかしさ」をめぐる人間学的一試論 -滑稽で、いぶかしくて、すばらしい-」『追手門学院大学笑学研究年報』第5号）

## 研究業績

### I 著書

#### 編著

鳶野克己編『人間を生きるということ - 「体験」の教育人間学に向けて -』（「体験をめぐる教育人間学の試み」、「かけがえがない」とはどういうことか - 「別離」の教育人間学試論 -」を執筆）文理閣 2016年3月

#### 共編著

矢野智司・鳶野克己編『物語の臨界 - 「物語ること」の教育学 -』（「物語ることの内と外 - 物語論的人間研究の教育的核心 -」、「生の冒険としての語り - 物語のもう一つの扉 -」を執筆）世織書房 2003年3月

#### 共著

和田修二・山崎高哉編『人間の生涯と教育の課題』（「老年期」、「自然と教育」を執筆）昭和堂 1988年11月  
加野芳正・矢野智司編『教育のパラドックス/パラドックスの教育』（「「拠り所のなさ」という拠り所 - 人間形成における〈物語〉の批判的再生のために -」を執筆）東信堂 1994年6月

- 和田修二編『教育的日常の再構築』（「笑い人間形成－「笑いは如何にして人間形成を語るか」にむけての助走－」を執筆）玉川大学出版部 1996年3月
- 光華女子大学人間関係学科編『人間関係のプリズム』（「笑いのスタンス－「笑いの人間形成論」ノート－」を執筆）ナカニシヤ出版 1996年6月
- 作田啓一・木田元・亀山佳明・矢野智司編『人間学命題集』（「絶望という跳躍板－S.A. キェルケゴール－」を執筆）新曜社 1999年4月
- 光華女子大学人間関係学科編『変わる社会・変わる生き方』（「Without You－生きがい論を超えて－」を執筆）ナカニシヤ出版 1999年8月
- 皇紀夫・矢野智司編『日本の教育人間学』（「蜂屋慶の教育人間学」を執筆）玉川大学出版部 1999年11月
- 山崎高哉編『応答する教育哲学』（「「生きることの喜び」について－その別様の語り方に関する試論－」を執筆）ナカニシヤ出版 2003年3月
- 斎藤稔正・林信弘編『教育人間学の挑戦』（「「ほんとうの自分」という強ばり－「こころの時代」を省みる－」を執筆）高菅出版 2003年5月
- 皇紀夫編『臨床教育学の生成』（「先生は眠らない－生の誘惑としての教育－」を執筆）玉川大学出版部 2003年6月
- 斎藤稔正編『行の人間学』（「「わかりあえない」という関係－人間関係の研究への隠し扉－」を執筆）高菅出版 2005年4月
- 上田閑照監修、皇紀夫・山田邦男・松田高志・吉村文男編『人間であること』（「笑いへの反省／笑いからの反省－「優越の理論」とかかわらせつつ－」を執筆）燈影舎 2006年1月
- 林信弘編『愛の人間学』（「愛を生きるとはどういうことか－スケッチを通して考える－」を執筆）高菅出版 2007年6月
- 臨床教育人間学会編『生きること』（「笑うという生き方－何がそんなにおかしいのか－」を執筆）東信堂 2008年6月
- 谷徹・今村仁司ほか『暴力と人間存在』（「暴力の教育的擬態を超えて－教育学的暴力研究における人間学的展開のために－」を執筆）筑摩書房 2008年8月
- 和田修二・皇紀夫・矢野智司編『ランゲフェルト教育学との対話－「子どもの人間学」への応答－』（「子どもの泣き声に会う－教育的自覚の淵源－」を執筆）玉川大学出版部 2011年6月
- 田中毎実編『教育人間学－臨床と超越－』（「「生きることのかなしみ」という力－かなしみの教育人間学に向けて－」を執筆）東京大学出版会 2012年8月
- 矢野智司編『マナーと作法の人間学』（「あいさつと超越性－祈りとしてのあいさつのために－」を執筆）東信堂 2014年9月
- 新堀通也先生追悼集刊行委員会編『新堀通也、その仕事』（「愛に生きた人の肖像－新堀通也『教育愛の構造』へのささやかなオマージュ－」を執筆）東信堂 2015年3月
- 田中耕治編『教職教養講座第6巻 道徳教育』（「「いのち」をかなしむ－道徳教育の基盤への一視点－」を執筆）協同出版 2017年10月

## 事典

- 教育思想史学会編『教育思想事典』（「愛」、「古典」、「歴史」の計3項目を執筆）勁草書房 2000年

5月

教育思想史学会編『教育思想事典（増補改訂版）』（「愛」、「古典」、「歴史」、「笑い」の計4項目を執筆）勁草書房 2017年9月

日本教育社会学会編『教育社会学事典』（中項目「死生観の教育」を執筆）丸善出版 2018年1月

## 共訳

M. J. ランゲフェルド（和田修二監訳）『よるべなき両親－教育と人間の尊厳を求めて－』（「人生の意味」を翻訳 共訳者 川勝清司、鳶野克己、広瀬信、吉岡真佐樹、伊藤一也）玉川大学出版部 1980年7月

## Ⅱ 論文（いずれも単著）

「教育愛の根拠についての一考察」『関西教育学会紀要』（6）1982年6月

「教育愛の存在論的根拠」『京都大学教育学部紀要』（29）1983年3月

「教育的営為の根拠についての一試論－とくに「教育的意志」をめぐる－」『光華女子大学研究紀要』（23）1985年12月

「教育的文化本質論にむけて」『関西教育学会紀要』（10）1986年6月

「教育と創造－教育的営為の創造性－」『光華女子大学研究紀要』（24）1986年12月

「教育学的ユーモア論のための素描」『光華女子大学研究紀要』（25）1987年12月

「桎梏としての「人間性」と「人生」－教育の「物語」についての覚え書－」『光華女子大学研究紀要』（28）1990年12月

「自己のフットワーク－ユーモアの人間形成論にむけて－」『光華女子大学研究紀要』（29）1991年12月

「〈自明性の確立〉の意義の自明性」への一問いかけ－田中論文「ホスピタリズムと教育における近代」を読んで－」『近代教育フォーラム』（2）1993年9月

「自己の万華鏡－人間関係の研究への一視点－」『光華女子大学研究紀要』（32）1994年12月

「文系女子単科大学における「情報処理論」必修化の試みについて」『第2回 '96FDフォーラム報告集』1997年3月

「物語・教育・拠り所－恫喝としての同一性－」『近代教育フォーラム』（6）1997年9月

「私が生きているということの不思議－人間関係の研究へのある隠し扉に関するメモランダム－」『光華女子大学研究紀要』（35）1997年12月

「それでもやはり「非同一性」のほうへ」『近代教育フォーラム』（7）1998年9月

“Humor as Self-Consciousness: An attempt of Humor Research in Philosophy of Education”,  
ABSTRACTS 2000 International Humor Conference 2000年7月

「Anytime, Anywhere－〈非－完成〉の人間形成をめぐる基礎的考察－」『年報人間関係学』（2・3合併）2000年12月

「語り続ける力としての〈教養〉」『教育哲学研究』（87）2003年5月

「「判断すること」について考える」『児童心理』（792）2003年9月

「教育哲学を考える」『教育哲学研究』（94）2006年11月

「暴力の教育的擬態を超えて－教育学的暴力研究における人間学的展開のためのノート－」『暴力

- と人間存在の関わりについての理論的および実証的な全体研究』（文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書） 2008年4月
- 「人間であることの野性に向けて－内なるカマラを思い、カマラを生きる－」『立命館大学人文科学研究紀要』（94） 2010年3月
- 「戦略・戦術という視座への希望と懸念－研究活動は「戦い」なのだろうか－」『近代教育フォーラム』（19） 2010年9月
- 「<生きていることの不思議>に目覚める－私は生まれてこなくてもよかった!?－」『上小教育』（57） 2014年3月
- 「文化の根底と意味に生きる人間－あなたと一緒にケーキが食べたい－」『上小教育』（58） 2015年3月
- 「笑いに魅入られた私たちはいったい何処へ行くのか－「日本笑い学会」という挑戦、課題、そして希望－」『笑い学研究』（22） 2015年8月
- 「笑う存在としての人間－生きることはこんなにおかしい－」『上小教育』（59） 2016年3月
- 「あがる産声／ひきとられる息－教育における超越への扉－」『教育哲学研究』（113） 2016年5月  
 “First Cry and Dying Breath : The Door to Transcendence in Education”, English E-Journal of the Philosophy of Education (1) 2016年11月
- 「「生きることのかなしみ」再考」『教育哲学研究』（115） 2017年5月
- 「「さようなら」を学ぶ－別離としての教育／教育としての別離－」『関西教育学会年報』（41） 2017年8月
- 「この世ではないどこかを、この世において思うということ－「いのちへの世話」をめぐる教育人間学的一素描－」『教育学研究』（85-1） 2018年3月
- 「「生きることのかなしみ」への目覚め－教育の本質についての教育人間学的一提言－」『京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会会報』（37） 2018年6月
- 「「笑うこと」の不思議」を改めて思う」『笑い学研究』（25） 2018年7月
- 「笑い」と「この世ならざるどこか」『笑い学研究』（26） 2019年8月
- 「「生きることのかなしみ」に目覚める－教育人間学は教育の本質をどのように語るか－」『教師教育研究』（32） 2020年1月
- 「「生きることのおかしさ」をめぐる人間学的一試論－滑稽で、いぶかしくて、すばらしい－」『追手門学院大学笑学研究所年報』（5） 2020年3月
- 「「生きること」の訳のわからなさ」と笑い」『笑い学研究』（27） 2020年8月

### Ⅲ 書評（いずれも単著）

- 「藤本浩之輔編『子どものコスモロジー－教育人類学と子ども文化－』」『児童心理』（714） 1997年3月
- 「松田高志『いのち深く生きる教育』」『関西教育学会研究紀要』（5） 2005年6月
- 「藤川信夫編『教育学における優生思想の展開－歴史の展望－』」『教育哲学研究』（98） 2008年11月
- 「矢野智司『贈与と交換の教育学－漱石、賢治と純粹贈与のレッスン－』」『関西教育学会研究紀要』

(9) 2009年6月

「木村洋二編『笑いを科学する－ユーモアサイエンスへの招待－』『笑い学研究』(20) 2013年8月

「皇紀夫編『「人間と教育」を語り直す－教育研究へのいざない－』『関西教育学会研究紀要』(14) 2014年8月

「藤川信夫編『教育／福祉という舞台－動的ドラマツルギーの試み－』『教育哲学研究』(111) 2015年5月

「杉本均編『ブータン王国の教育変容－「近代化」と幸福のゆくえ－』『関西教育学会研究紀要』(17) 2017年8月

「菱刈晃夫『メラニヒトンの人間学と教育思想 研究と翻訳』『教育学研究』(86-2) 2019年6月

「小向敦子『すごい葬式 笑いで死を乗り越える』『笑い学研究』(26) 2019年8月

#### IV 研究発表等

##### 単独発表

「教育愛の根拠についての一考察」 関西教育学会第33回大会 1981年11月

「教育の根拠としての文化の本質について」 関西教育学会第37回大会 1985年10月

「道徳教育の基礎に関する一私見」 関西教育学会第40回大会 1988年10月

「物語・教育・拠り所－恫喝としての同一性－」 近代教育思想史学会第6回大会 1996年9月

「文系女子単科大学における「情報処理論」必修化の試みについて」 京都・大学センター第2回FDフォーラム 1996年12月

「笑いと生きがい－「生きがい論」を超えて－」 日本笑い学会第5回大会 1998年6月

“Humor as Self-Consciousness: An Attempt of Humor Research in Philosophy of Education”,  
The 12th Conference of the International Society for Humor Studies 2000年7月

「人間形成論における物語論的視点の可能性を考える」 教育哲学会第44回大会 2001年10月

「語り続ける力としての<教養>」 教育哲学会第45回大会(理事会企画の課題研究) 2002年10月

「「物語る」ことの「感動」と「快樂」－物語論的人間研究の教育学的可能性－」 同志社大学教育文化学会第14回年次大会 2004年9月

「目覚めさせ続ける運動としての「笑い」－物語論的人間研究にとっての「笑い」の問題－」 臨床教育人間学会第7回カンファレンス 2004年12月

「笑うという生き方－何がそんなにおかしいの?－」 臨床教育人間学会第9回カンファレンス 2006年9月

「笑いの彼岸/彼岸の笑い－笑いの彼方に見えてくるもの－」 日本笑い学会京都支部例会(京都笑科大学) 2007年10月

「あいさつと超越性－祈りとしてのあいさつのために－」 子ども社会学会第17回大会 2010年7月

「教育人間学は何ではないか」 教育人間学会第4回大会 2010年11月

「あいさつと超越性－祈りの教育人間学－」 第6回マナー研究会 2011年11月

「彼方へのあいさつ/彼方からのあいさつ－「おはようございます」の教育人間学－」 教育人間学会 第5回大会 2011年11月

「あいさつの教育をどう考えるか－祈りとしてのあいさつを生きる－」 素心会(木村素衛教育学研

- 究会) 2012年7月
- 「マナーの極限／極限のマナー－生の出来事としての認知症をめぐるマナー論的断片(1)－」 マナー研究会 2013年春例会(科研費) 2013年2月
- 「彼岸の笑い／笑いの彼岸－生きることのおかしさへ－」 日本笑い学会関東支部第199回研究会 2013年5月
- 「分ければ一人で運べる荷物をなぜ二人で運ぶのか－教育における個と集団を捉え直す－」 第41回素心会(木村素衛教育学研究会) 2013年7月
- 「<生きていることの不思議>に目覚める－私は生まれてこなくてもよかった!?－」 第55回菅平夏季大学 2013年8月
- 「概念への愛／概念からの愛－教育人間学の方法をめぐる議論に寄せて－」 教育人間学会第7回大会 2013年11月
- 「マナーにおけるもう一つの超越性－生の出来事としての認知症をめぐるマナー論的断片(2)－」 マナー研究会 2014年春例会(科研費) 2014年2月
- 「笑いと彼岸－生きることはこんなにおかしい!?－」 日本笑い学会中部支部第144回笑例会 2014年5月
- 「言葉のいのち／いのちの言葉－言葉のちからと教育－」 第42回素心会(木村素衛教育学研究会) 2014年7月
- 「文化の根底と意味に生きる人間－あなたと一緒にケーキが食べたい－」 第56回菅平夏季大学 2014年8月
- 「何がそんなにおかしいの?－笑いの根源といのちの不思議－」 日本笑い学会第217回公開講座 2014年11月
- 「笑う存在としての人間－生きることはこんなにおかしい－」 第57回菅平夏季大学 2015年7月
- 「「老いること」を学ぶ－教育のもう一つの課題－」 第43回素心会(木村素衛教育学研究会) 2015年7月
- 「生きることのおかしさ－笑いの根源といのちの不思議－」 日本笑い学会第22回三重大会 シンポジウム 2015年8月
- 「あがる産声／ひきとられる息－教育における超越への扉－」 教育哲学会第58回大会研究討議(シンポジウム) 2015年10月
- 「笑わずに死ぬるか－生きることのおかしさをめぐる人間学的断想－」 統合人間学会第1回学術大会 2016年4月
- 「「いのちへの世話」ということ－改めて教育の原点を思う－」 第44回素心会(木村素衛教育学研究会) 2016年7月
- 「教育におけるこの世にはないもの」 教育人間学会 第10回大会 2016年11月
- 「「さようなら」を学ぶ－別離としての教育／教育としての別離－」 関西教育学会第58回大会 2016年12月
- 「生きているってなんかおかしい－いのちの不思議への目覚めと笑い－」 日本笑い学会京都支部例会(京都笑科大学) 2017年6月
- 「泣くことと笑うこと、そしていのちを祝うこと－いのちへの世話としての教育(2)－」 第45回素心会(木村素衛教育学研究会) 2017年7月

- 「生きることのかなしみ」と人間形成－もう一つの「生きる力論」のために－ 同志社大学教育文化学会第 27 回年次大会 2017 年 9 月
- 「あなたと一生遊んで暮らしたい！？－遊びの人間学への誘い－」 滋賀県国公立幼稚園・こども園長会第 2 ブロック研修会 2017 年 9 月
- 「生きることのかなしみ」への目覚め－教育の本質についての教育人間学的一提言－ 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会研究大会 2018 年 2 月
- 「生きることのかなしみ」への目覚め－教育の本質についての教育人間学的一提言－ 全国私立大学教職課程協会第 38 回研究大会 2018 年 5 月
- 「生きる力」はどこからくるか－そもそも「力」って何だろう－ 第 46 回素心会（木村素衛教育学研究会） 2018 年 7 月
- 「生きることのおかしさとかなしさ－笑ういのちをいとおしむ－」 日本セカンドライフ協会定期講演会 2019 年 5 月
- 「なぜ裸でいることは恥ずかしいのか－「私たちの内なるカマラ」再考－」 第 47 回素心会（木村素衛教育学研究会） 2019 年 7 月
- 「育てること」と「看取ること」－世話し、世話される「いのち」を思う 島本町民生委員・児童委員協議会研修会 2020 年 11 月
- 「生きる力」はどこからくるか－「いのちへの教育人間学」のために－ 第 14 回教育人間学会 2020 年 11 月

#### 共同発表

- 「子どもにとって遊びとは何か（I）」 日本教育学会第 42 回大会 1983 年 8 月 共同発表者 蜂屋慶、鳶野克己、川勝清司、大西正倫

#### V 科学研究費助成事業

暴力と人間存在の関わりについての理論的および実証的な全体研究 基盤研究 (B) 2005 年 4 月－2008 年 3 月 研究分担者

マナーと人間形成に関する理論的・実証的研究 基盤研究 (B) 2008 年 4 月－2011 年 3 月 研究分担者

マナーと人間形成に関する総合的研究 基盤研究 (B) 2011 年 4 月－2014 年 3 月 研究分担者

#### VI その他

毎年一回夏期に開かれる、長野県上田市および小県郡地区の小中学校教員有志の研修会「素心会」において、講演並びに研究指導を行っている。 1997 年 8 月以来継続 対象：小中学校教員

高校等の模擬講義：三重県立津西高等学校から招請を受け、夏期受験合宿において、「遊びと人間」に関する出張模擬講義を行った。 2004 年 8 月 対象：当該高校生徒および教員

高校等の模擬講義：私立近江兄弟社高等学校から招請を受け、「大学での学びへ向けたある反時代的ないざない－「正解を教わること」から「答えきれない問いを深めること」へ－」と題して、出張模擬講義を行った。 2007 年 9 月 対象：当該高校生徒および教員

高大連携講義：2008 年度高大連携協定校プログラムにおいて、「生きていることの不思議－別に生ま

れてこなくてもよかった！？-」と題して、教育人間学への入門的な講義を行った。 2008年8月 対象：協定校生徒

高校等の模擬講義：静岡県立藤枝東高等学校からの招請を受け、「遊びから何を学ぶか-教育人間学への誘い-」と題して、出張模擬講義を行った。 2008年10月 対象：当該高校生徒および教員

高大連携講義：2011年度高大連携協定校プログラムにおいて、「生きていることの不思議-別に生まれてこなくてもよかった！？-」と題して、教育人間学への入門的な講義を行った。 2011年7月 対象：協定校生徒

高大連携講義：2012年度オープンキャンパスにおいて、「[人間とは何か]とは何か-人間研究への誘惑-」と題して、模擬講義を行った。 2012年8月 対象：参加高校生徒

長野県「上小教育会」主催の「菅平夏季大学」において、教職員研修の講師として講演を行った。  
2013年7月 対象：長野県上田市の小中学校教員並びに市民

高校等の模擬講義：大阪府立高槻北高等学校から招請を受け、「なんで生まれてきたの？ どうして死んでしまうの？ -<いのちの不思議>への教育的眼差し-」と題して、進路指導の一環として、出張模擬講義を行った。 2014年5月 対象：当該高校生徒

長野県「上小教育会」主催の「菅平夏季大学」において、教職員研修の講師として講演を行った。  
2014年7月 対象：長野県上田市の小中学校教員並びに市民

長野県「上小教育会」主催の「菅平夏季大学」において、教職員研修の講師として講演を行った。  
2015年7月 対象：長野県上田市の小中学校教員並びに市民

高校等の模擬講義：大阪府立香里丘高等学校から招請を受け、「なぜ生まれてきたの？ どうして死んでしまうの？ -<いのちの不思議>への教育的眼差し-」と題して、進路指導の一環として、出張模擬講義を行った。 2015年7月 対象：当該高校生徒

高大連携講義：2016年度高大連携協定校プログラムにおいて、「生きていることはこんなにおかしい-笑いの人間学への誘い-」と題して、教育人間学への入門的な講義を行った。 2016年6月 対象：協定校生徒

高校等の模擬講義：大阪府立高槻北高等学校から招請を受け、「生まれてきたことの不思議/死んでいくことの不思議-「祝うこと」と「悼むこと」の教育人間学-」と題して、進路指導の一環として、出張模擬講義を行った。 2017年1月 対象：当該高校生徒

